

長期戦略:テーマ 「内部進学者の増加」

提出日 2022 年 8 月 24 日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	柳屋常任理事(法人) (総務部)	実施計画の 担当部署	高等部・入学センター
-----------------------	---------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
4-(3)-① 高等部から大学への内部進学率維持 (16 年度実績 94.4%)	2019 年度	2024 年度	必要なし	不要
内容				
<p>高等部最大のメリットは、いわゆる受験勉強に時間をかけることなく、その時間を様々な活動に充てることができることである。その強みを高大連携という形でより強化し、さまざまな形で高等部生を早期に囲い込んでいくことで、関西学院大学への内部進学率を維持していくことができると考える。主として以下の3つの施策を実施し、成績上位層のキープと成績下位層の底上げにつなげる。</p> <p>施策 1:より深い高大連携を意識した、魅力あるカリキュラムの創出 長期戦略テーマ「特長ある一貫教育の創出」の実実施計画 4-(4)-③「高等部生の「学びの先取り」制度の具体的検討と実施」にある通り、併設のメリットを最大限に活かし、高等部に在籍しながら、関西学院大学での学びの先取りをできるカリキュラムを創出し、生徒が実際に関西学院大学での学びに触れる機会を増やす。</p> <p>施策 2:大学のリソースを利用した、サポート体制の強化 同じく長期戦略テーマ「特長ある一貫教育の創出」の実実施計画 4-(4)-④「大学生メンター制度の導入」を実現し、生徒が「関西学院の大学生になった自分」をイメージできる機会を増やす。</p> <p>施策 3:関西学院大学の各学部での「特長」、「学び」、「学生生活」をより深く具体的に理解し、知ることのできるより効果的な機会の設置と、仕組みの構築。 現在も各学部教員による学部説明会やオープンキャンパスへの参加等を実施しているが、高大接続センターと連携し、より具体的なイメージを持てる機会をより多く提供していく。神戸三田キャンパス、理工学部、総合政策学部への関心をさらに高めるため、数年前より理工学部・総合政策学部と「神戸三田キャンパスツアー」を共催しているが、その内容を参考にしつつ更に発展させたものとしていく。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	内部進学率	算式: 関西学院大学へ進んだ生徒数/卒業生全員 × 100 (%)		
指標2				
指標3				

目標1<指標1>内部進学率

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	92%	93%	94%	94%	94%	94%
実績	93.6%	94.7%	95%			

目標2<指標2>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

目標3<指標3>

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標						
実績						

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
施策1: 実施計画 4-(4)-③ 高等部生の「学びの先取り」の具体的検討と推進	策定段階	検討開始	検討内容とりまとめ	学内調整が済んでいる	新たな「学びの先取り」科目が設定されている	継続
	2023年3月末段階	—	コロナ禍で進めることができなかった	AI 活用人材育成プログラム(入門科目)の追加について学内調整	AI 活用人材育成プログラム(入門科目)を追加設定	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	見直し	見直し後継続	継続	見直し	
	2023年3月末段階	—				

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
施策2: 実施計画 4-(4)-④「大学 生メンター制度の導入」 の実施	策定段階	高等部での スモールスタート	高等部での実施	高等部での実施	高等部での実施	中学部スタート 高等部継続
	2023年3月末 段階	—	高等部コロナ禍のため、 2019年度より小規模で実施	高等部コロナ禍のため、 スモールスタート 中学部導入検討開始	高等部スタート 中学部導入検討	高等部2年目 中学部導入開始
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	中学部での実施 高等部継続	中学部での実施 高等部継続	初等部スタート 中・高継続	初等部での実施 中・高継続	
	2023年3月末 段階	高等部3年目 中学部スタート				

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
施策3: より効果的な広報活動の 実施	策定段階	検討開始 学内調整	可能なものより実施	継続と検証	継続と検証	継続と検証
	2023年3月末 段階	—	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	継続と検証				
	2023年3月末 段階	—				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2023年3月末 段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2023年3月末 段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	2019年度卒業生の内部進学率は目標92%のところ、実績93.6%であった。
2020年度	2020年度卒業生の内部進学率は目標93%のところ、実績94.7%であった。
2021年度	2021年度卒業生の内部進学率は目標94%のところ、実績95%であった。
2022年度	
2023年度	
2024年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019年度	学びの先取りができるカリキュラムの創出については、WWLC事業の取組項目でもある。よって、2021年度の実施に向けて関係部署と調整をおこなっていく。メンター制度については2019年度2学期から開始予定。どのような体制、運用方法が生徒にとって有効か試行の中で見極めていく。関西学院大学を知るための機会の設置や仕組みの構築として、現在実施している「神戸三田キャンパスツアー」や関西学院大学教員による入門講座(3年生選択科目)を通じて生徒の関心を高めるプログラムをより充実したものにしていく。
2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、例年実施している学部説明会などのプログラムが不開催となり、3年生への大学情報の提供機会が失われている。今後どのようにフォローしていくかが課題となっている。
2021年度	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、例年実施している学部説明会の実施方法がオンラインに変更となった。3年生への大学情報の提供機会が失われないように対応していくことが課題となっている。
2022年度	引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響下にあるが、様々な工夫のもとそれぞれの施策を進めることができている。施策3に関連して、この2年間の様々なイレギュラーな対応は、高等部として自らの進路プログラムを見直す良い機会となった。現在、高校1年生から段階的に自分の進路とその先にある関西学院大学についての理解を深めて行けるプログラムを作成中である。
2023年度	
2024年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018年度	—
2019年度	—
2020年度	—
2021年度	—
2022年度	—
2023年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・進学率維持は高等部として継続的に取り組む課題と認識している。 ・大学も受け入れ側として各学部の協力が必須である。 	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・同左

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<input type="checkbox"/> 継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	